

開会の挨拶

法政大学社会学部教授 平塚 眞樹

皆さん、こんばんは。きょうは遅い時間にもかかわらず大勢来てくださりまして、ありがとうございます。私は多摩キャンパスで教職課程を担当している教員です。

きょうのこのシンポジウムは、法政大学の教職課程センター主催になっています。教職課程センターについては皆さんにお渡ししている資料の「多摩だより」の中に少しご紹介がありますが、この大学で教職課程を履修している学生さんたちに、ひと言で言えばプラスアルファの支援を行うための場と考えています。

授業の中だけでは、私たちの力不足もあってなかなか十分な教育ができないところがあります。学生さんに心苦しいなと思っていることもたくさんあって、わずかながらではありますが、この教職課程センターを設けることで、学生さんたちが授業にプラスして自分の力をつけたいとか、進路を目指して採用試験の勉強をしたいとか、教職課程と一緒に学ぶ友達が欲しいとか、そういう人たちの出会いとつながり、あるいは学びの場をつくりたいと思っています。

きょう運営を一緒に担ってくださっているのが教職課程センターの多摩相談室のスタッフの皆さんで、月曜から金曜日の10～18時、相談員の先生方が、日によって代わりますが、皆さんの相談にあずかる態勢をとっています。総合棟の2階入り口から入っていちばん手前の部屋が教職課程センターの多摩相談室です。この会場には学生さん以外の方たちもたくさんいらっしゃると思いますが、学生で関係のある方々はぜひ活発に利用していただけたらと思います。

きょうのシンポジウムは多摩キャンパスで

年1回今後も企画していきたいと思っていて、設立された2012年に続いてきょうは2回目です。

後ほどお話をいただきますが、法政大学の教職課程センターのセンター長は、主に市ヶ谷キャンパスでご勤務をなさっている尾木直樹先生です。普段は市ヶ谷にいらっしゃいますが、年に1回は多摩に来て、ぜひシンポジウムにご参加くださいとお願いしていて、快く来ていただいています。

きょうも尾木先生にホスト役になっていたで、ゲストは現在、法政大学ラグビー部監督の谷崎重幸先生に来ていただいています。もちろん後ほどお話をいただきますし、そこで自己紹介もして下さると思いますが、少し早めに来た皆さんたちには、開演までの時間を使って「教科書にのせたい！」というテレビ番組録画を見ていただきました。

この番組では今日のゲストの谷崎さんがビデオの中で登場して、尾木直樹さんはスタジオにコメンテーターでいらっしゃるということで、直接の出会いにはなかったわけですが、間接的にお二人が出会われていた番組でした。それを谷崎さんから教えていただいて、きょうは最初に少し流しました。

お二方にきょうお話ししていただこうと思っておりますのは、生徒の自主性や個性を伸ばす教育とは何だろうということです。スポーツ指導などにおいては特に体罰がよく問題になります。去年も大阪の桜宮高校の事件から端を発して、体罰論議が日本の中でかなり大きな議論になりました。もちろんスポーツや体育の授業だけではなく、生徒の自主性や個性よりも、規律や管理、規則、そういうものを大事にする教育というのはいろ

いろいろあるわけです。

きょうの講師の先生方、ホストの尾木直樹さん、ゲストの谷崎重幸さんはお二方ともそういう意味ではちょっと違った教育のモデルを世に伝えてくださっている方々です。『『教える』教師から『教わる』教師へ』と、今日の会にタイトルをつけましたが、教師が一生懸命になって生徒に教え込もうとする教育ではなくて、むしろ生徒の中にあるものを引き出し、教師が学ぶ、そういう教育をどうつくっていけるのか。そんなことを皆さんと一緒に考えたいと思っています。

このあとお二方からそれぞれ 40 分ずつお話をいただいて、そのあと休憩をはさんで、残り 1 時間弱はトークセッションということで、お二方のお話とフロアの皆さんのご発言を織り交ぜながら進行していただく予定です。皆さんからもご意見を頂戴したいと思いますので、トークセッションのほうでご発言いただけたらと思います。

それでは 8 時までの時間ではありますが、ぜひゆっくりお楽しみいただいて、積極的にご参加いただければと思います。きょうは本当にどうもありがとうございます。(拍手)